

## 律法を成就するために来られたキリスト

### ルカ福音書16:14-18

16:14 さて、金の好きなパリサイ人たちが、一部始終を聞いて、イエスをあざ笑っていた。

16:15 イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、人の前で自分を正しいとする者です。しかし神は、あなたがたの心をご存じです。人間の間であがめられるものは、神の前で憎まれ、きらわれます。

16:16 律法と預言者はヨハネまでです。それ以来、神の国の福音は宣べ伝えられ、だれもかれも、無理にでも、これに入ろうとしています。

16:17 しかし律法の一画が落ちるよりも、天地の滅びるほうがやさしいのです。

16:18 だれでも妻を離別してほかの女と結婚する者は、姦淫を犯す者であり、また、夫から離別された女と結婚する者も、姦淫を犯す者です。

### 【祈りながら考えよう】

- (1) 金の好きなパリサイ人たちが、イエスをあざ笑ったのはなぜですか。
- (2) パリサイ人たちは、律法を厳守し、敬虔で霊的なように見えたのに、何が問題だったのですか。
- (3) 主イエスが「律法を成就するために来た」とはどういう意味ですか。どのように成就されましたか。

### 【解説】

#### (1) 金の好きなパリサイ人たち

さて、金の好きなパリサイ人たちが、一部始終を聞いて、イエスをあざ笑っていた。(14節)

15章の1-3節に、《さて、取税人、罪人たちがみな、イエスの話を聞こうとして、みもとに近寄って来た。すると、パリサイ人、律法学者たちは、つぶやいてこう言った。「この人は、罪人たちを受け入れて、食事までいっしょにする。」そこでイエスは、彼らにこのようなたとえを話された》とある。

15章の失われた羊、なくした銀貨、放蕩息子のたとえ、そして16章の不正な管理人のたとえと、次々に語られていたそこに、取税人たちや罪人たちと共にパリサイ人や律法学者たちが一緒になって聞いていたということがわかる。

#### ① 律法に熱心なパリサイ人

パリサイ人といえば、律法に熱心な、律法すくめの毎日の生活をしてきた人のように思われる。しかし、ここで《金の好きなパリサイ人たち》と言われている。

イエスの時代のパリサイ人たちがいかにこの世の名誉を求め、この世の富を求め、また執着していた者たちであったかということがわかる。彼らは律法に熱心ではあった。しかしそれは形の上だけであった。

彼らは定められた祈りの時を必ず守った。施しもした。献金も捧げ物も必ず十分の一をささげた。ルカ福音書18章の中で出てくるあのパリサイ人のようであった。

ルカ18章11-12節、「パリサイ人は、立って、心の中でこんな祈りをした。『神よ。私はほかの人々のようにゆるする者、不正な者、姦淫する者ではなく、ことにこの取税人のようではないことを、感謝します。私は週に二度断食し、自分の受けるものはみな、その十分の一をささげております』。このようにはっきり言えるところの存在であった。

またルカ福音書11章のところでは、イエスがパリサイ人攻撃をされたが、42節に《だが、わざわざだ。パリサイ人。おまえたちは、はっか、うん香、あらゆる野菜などの十分の一を納めているが、公義と神への愛はなおざりにしています。これこそしなければならないことです。ただし、十分の一もなおざりにしてはいけません》と言われている。はっか、うん香、これは薬味、香辛料であり、わずかなものである。

こうした(わずかなもの)でも手に入ると、必ずその十分の一を分けて、宮に納める。いと小さいところに至るまで、律法によって十分の一をささげるということをしていた。また、施しも適当にやっていた。

#### ② 貪欲な心が隠れていた

だから少しも欲が深いようには見えない。律法を忠実にやっている、自分では思っていた。しかし、そうした表面に表れた形の陰に隠れて、彼らの心は貪欲であった。

この世で財を持つこと、地位、名誉、人の前での誉れ、りっぱなパリサイ人、律法の学者だ、先生だと、この世で尊ばれることに対して、貪欲であった。表面上は道徳的で立派に見える、そういう人ほど内側がまことに汚いもの、貪欲なものである。イエス様時代のパリサイ人には、そういう者たちが多かった。

#### (2) イエスをあざ笑う

さて、金の好きなパリサイ人たちが、一部始終を聞いて、イエスをあざ笑っていた。(14節)

《パリサイ人たちは》はどうしてあざ笑ったのか。イエスが不正な管理人のたとえをもって、この世の富を用いてても、自分のために天の御国の友だちを作るがよい、神と富に兼ね仕えることはできない、と言われた。

しかしイエス自身はどうか、職もなく家もなく、持ち物もない。イエスに従う弟子たちもまた然り。みんなその日その日を、今日はこの町、明日はあの町にと、定まった宿る場所もない。そういう者が、神と富に兼ね仕えることはできないと言ったって、持たない者の負け惜しみではないか。何にも持たぬくせに、そんな偉そうなことを言って、イエスの話は実際的ではないと、心からバカにして笑った。

#### (3) 富が彼らの神であった

イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、人の前で自分を正しいとする者です。しかし神は、あなたがたの心をご存じです。人間の間であがめられるものは、神の前で憎まれ、きらわれます。(15節)

パリサイ人たちは外見上は敬虔で霊的なように見えた。自分は《人》の目には正しい者だと思っていた。しかし、《神》は、彼らの内側に潜む強欲な肉の《心》を見抜いておられた。

神は彼らの(見せかけ)に、だまされるようなお方ではない。彼らが示した生き方、他人がよいと認める生き方は、神の目には(忌まわしいもの)なのである。

彼らは自分たちを成功者とみなしていた。宗教的な職業に就き、しかも経済的にも裕福だったからである。しかし、神の目から見れば、彼らは霊的に姦淫を犯している者であった。口では主なる神(ヤハウェ)を愛していると言いつつ、実際はこの世の(富)が彼らの神であった。

#### (4) 主は「律法を成就するために」来られた

律法と預言者はヨハネまでです。それ以来、神の国の福音は宣べ伝えられ、だれもかれも、無理にでも、これに入ろうとしています。(16節)

#### ① 「律法と預言者はヨハネまでです」

主はこのように、律法の時代がモーセで始まりバプテスマの《ヨハネ》で終わったことを告げられた。では旧約聖書(律法と預言者)は不要になるのかと言うと、そうではない。

主はマタイ福音書5章17節で「わたしが来たのは律法や預言者を廃棄するためだと思っはなりません。廃棄するためにではなく、成就するために来たのです」と語られた。

#### ② 「律法を成就するために来た」とは、どういう意味ですか

旧約の律法は2種類に分けることができる。儀式律法と道徳律法である。

儀式律法は「型および影の本体であるキリスト」において成就された。バプテスマのヨハネが(証し)したように、罪のための(いけにえ)は、キリストにおいて「世の罪を取り除く神の小羊」となって成就した。

道徳律法によっては、人はみな神の律法に道徳的に違反しているため、断罪されていた。その罪の(さばき)を受けることを要求されていた。

イエスは、その救いのために、この世に来られた。律法に違反した者たちの身代わりとして、十字架で死なれた。キリストがすべての人の罪を背負い、罪人としてさばきを受けることによって、律法の要求を完全に成就された。

罪のない主のご生涯と十字架の死によって、厳しい律法の要求は完全に満たされ、救いを成就された。福音は、キリストの贖いのみわざによって、律法の要求がいかに完全に満たされているかを示す。

#### ③ 多くの人々が熱意をもって応答するようになった

ヨハネが来てから、《神の国の福音》が宣べ伝えられた。ヨハネはイスラエルの王が来られたことを告げ知らせた。もし悔い改めるならば、主イエスがその者を治めてくださると民に教えた。彼が宣教した結果、また主ご自身とその弟子たちが宣教した結果、多くの人々が熱意をもって応答するようになった。

《だれもかれも、無理にでも、これに入ろうとして》いるというのは、福音メッセージに回答した者たちが文字どおり御国に向かって激しい勢いで突進している、という意味である。たとえば、取税人や罪人たちは、悔い改めたことによって、聖霊よる新生によって心が変えられ、金銭を愛する自分の心を処理することができるようになった。パリサイ人たちのように、肉の心で頑張るのでなく、聖霊の力で容易に律法に従順な生活ができるようになられた。

#### (5) 道徳律法が廃棄されることはない

しかし律法の一画が落ちるよりも、天地の滅びるほうがやさしいのです。だれでも妻を離別してほかの女と結婚する者は、姦淫を犯す者であり、また、夫から離別された女と結婚する者も、姦淫を犯す者です。(17-18節)

新しい時代だからといって、道徳律法が廃棄されるわけではない。《律法の一画が落ちるよりも、天地の滅びるほうがやさしい》のである。

主は、「神の様々な道徳律法に違反しておきながら、自分たちは御国に入っているなど考えるな」と言っておられた。パリサイ人たちは、「私たちがどの道徳上の戒めに違反していると言うのか」と尋ねようとしたかもしれない。そこで主は、彼らが、結婚に関する律法に違反していることを暴露された。パリサイ人たちは、公然と離婚を行っていた。

「彼らはもはや、ふたりではなく一体である。だから、神が合わせられたものを、人は離してはならない」(マタイ19:6/口語訳)との(結婚の定め)に違反していると、暴露された。妻と離婚して《ほかの女と結婚する者は、姦淫を犯す》のであり、離婚された女と《結婚する者も、姦淫を犯す》のである。

